

抑制の検査(スターライトテスト:starlight test)

参考)プラクティス 86P54 より

目的

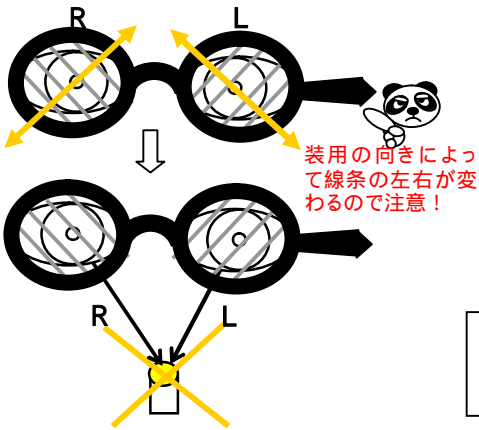
斜視弱視症例での中心部及び周辺部も加えた日常視に近い状態での両眼視(抑制)の把握
視野狭窄の症例における詐病の検出

準備物 光源3個・Bagolini レンズ

Bagolini レンズとは

例)右眼 135°と左眼 45°に装用した場合

光がそれぞれ直交した線となって見える



装用の向きによって線色の左右が変わるので注意!

光源を目的に応じ左右又は上下に3個等間隔に並べる



Hess チャートと同じ間隔に光源の位置を決めれば 1.4m離れた距離で1マスが5°間隔なので30°の両眼開放視野が測定できる。

検査したい距離にて Bagolini レンズを装用して中央の光源を固視させる



光源に近づけば測定視野は拡大し、離れると測定視野(網膜の範囲)は縮小する。

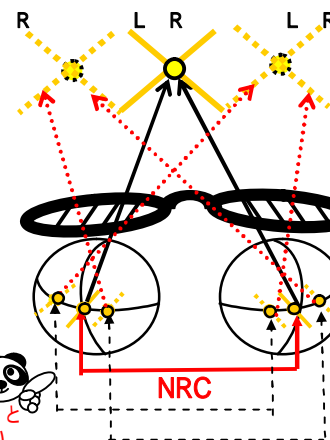
光源と中央の線の見え方を被検者に聞く
・線の本数はいくつ?
・光の本数はいくつ?
・交代に見えないか?



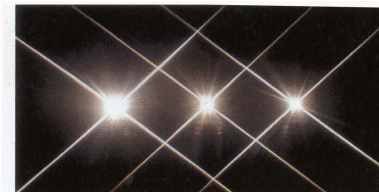
見え方の詳細は網膜対応検査の項に。

中央の光源を見ながら、同様に左右又は上下の光源と線の見え方を被検者に聞く

例)正常者の見え方



重複眼で考えると位置が判りやすい。



視能学 P312 図 25 正常者の見え方

下図のBG装用は左図とは反対なので注意!



視能学 P312 図 26 内斜視術後症例の見え方

線条試験で左眼の抑制を示したが、この検査では、周辺融像が確認された図

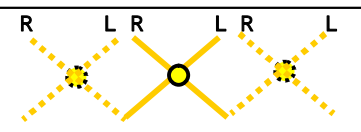
*右眼 135°と左眼 45°に装用した場合

*右眼中心窩抑制の場合

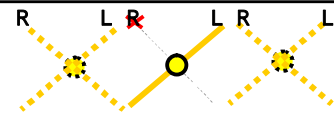
*右眼中心窩抑制と右眼耳側網膜周辺融像の抑制の場合

*右眼中心窩抑制と右眼網膜周辺融像の抑制の場合

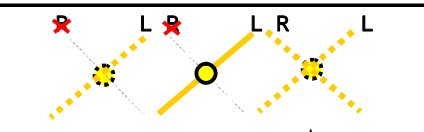
中央の光源の線が X で
周辺の線も全てに見える



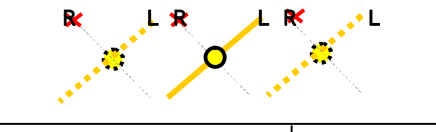
中央の光源は斜め1本線で
周辺の線は全てに見える



中央の光源は斜め1本線で周辺の
光源の片方が斜め1本線に見える



中央の光源は斜め1本線で
周辺の線も全て斜め1本線に見える



注意!!

ただし理論上、斜視がある場合抑制がないなら×が3つ見えるが、光源は×の中央を通らず6つ見えるはず。まあ、周辺融像はかなりのいい加減なのでなんとも言えないが...

両眼視良好

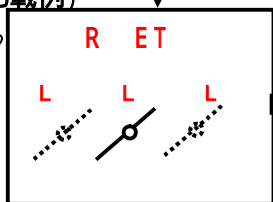
中央の斜め1本線でない方の眼の中心部抑制
周辺部融像は可能

中央の斜め1本線でない方の眼の中心部抑制
周辺部融像は斜め1本線になっている対応部位は可能

中央の斜め1本線でない方の眼の中心部抑制
周辺融像も不可能

結果・記載例)

記載例はまだ決まったものはないが、眼位と見た図とRLの記入は必要でしょう。



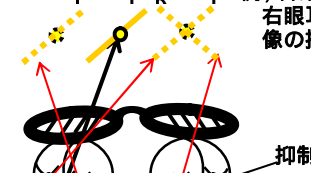
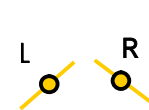
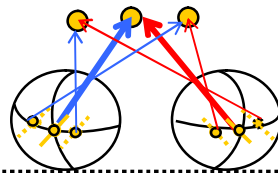
自分の結果を書いておこう!



説明



網膜の位置の確認はまず、3つの光源がどの部位になるかを確認する。R・L眼のどちらかのチェックは光源からの線の方で確認する。



例)右眼中心部抑制と右眼耳側網膜周辺融像の抑制の場合

抑制